

# 會 告

前掲の本年十一月初旬帝都に於て開催の工學會所屬十二學會聯合大會の部會として下記のプログラムに依り同月四日より本會第三回講演大會開催致候に就ては會員御一同へ別に御案内狀可差上候へ共何卒御誘合の上可成多數御參會被成下度此段豫告仕候也

昭和二年九月

社團法人 日本鐵鋼協會

## 日本鐵鋼協會第三回講演大會プログラム

第一日 (十一月四日) 金曜日 午前八時三十分開會

會 場 東京市京橋區加賀町 國民新聞社講堂

開 會 之 辭 日本鐵鋼協會々長 工學博士 鹽 田 泰 介君

講 演 (午前之部) 午前九時 開 演

(1) 砂鐵鑛の状態に就て

秋田鑛山専門學校教授 工學士 志村清次郎君

(2) 鑄物砂の試験法に就て

九州帝國大學工學部助教授 工學士 藤田守太郎君

休 憩 (十分間)

(3) 鑄鐵に及ぼす熔解温度の影響

九州帝國大學工學部助教授 工學士 谷 村 熙君

(4) 冶金用骸炭に就て

東京帝國大學工學部助教授 工學士 田 中 清 治君

休 憩 (十分間)

(5) 八幡製鐵所の製銑作業に就て

八幡製鐵所技師 工學士 平 川 良 彦君

(6) 現時吾國の製銑用骸炭

八幡製鐵所化工部長 工學士 黒 田 泰 造君

晝 食

講 演 (午後之部) 午後一時 開 演

- (7) 鑄造作業と初期品開始温度との關係  
大阪工業試験所技師 工 學 士 堀 切 政 康君
- (8) 白銑の黒鉛化に及す種々の瓦斯の影響  
京都帝國大學工學部助教授 工 學 士 澤 村 宏君  
休 憩 (十 分 間)
- (9) 固態滲炭劑に就て  
三菱内燃機會社技師 工 學 士 石 澤 命 知君
- (10) 鋳状鑄鐵の冷硬法に於ける化學成分の影響に就て  
株式會社神戸製鋼所技師 工 學 士 淺 田 長 平君  
休 憩 (十 分 間)
- (11) 鋼塊鑄型に就て 八幡製鐵所研究所員 森 寺 一 雄君
- (12) 八幡製鐵所製鋼操業に於ける熔銑の使用及熔鑛爐瓦斯、骸炭瓦斯  
利用に就て 八幡製鐵所製鋼部長 工 學 士 久 保 田 省 三君  
休 憩 (十 分 間)
- (13) 鋼材の壓延作業に就て  
八幡製鐵所技師 工 學 士 岡 崎 泰 祐君

午 後 五 時 閉 會

**第 二 日** (十一月五日) 土曜日—(會場第一日と同じ)—

講 演 (午前之部) 午前九時 開 演

- (14) 八幡製鐵所に於ける硅素鋼板の製造に就て  
八幡製鐵所鋼板部員 工 學 士 平 世 將 一君
- (15) 腐蝕に及ぼす歪の影響に就て  
東北帝國大學金屬材  
料研究所 助 教 授 理 學 博 士 遠 藤 彦 造君  
休 憩 (十 分 間)
- (16) 各種鋼材の高温度に於ける機械的性質に就て  
吳海軍工廠海軍造兵大尉 工 學 士 佐 々 川 清君
- (17) 低滿俺鋼の靱さに就て 東北帝國大學工學部  
金屬工學科 教 授 工 學 博 士 濱 住 松 二 郎君  
休 憩 (十 分 間)
- (18) 鋼の疲勞に就て  
日本特殊鋼合資會社技師 理 學 博 士 松 下 德 次 郎君
- (19) 鐵・炭素-クローム系合金の組織に就て  
東北帝國大學工學部教授 理 學 博 士 村 上 武 次 郎君

晝 食

講 演 (午後之部) 午後一時 開 演

(20) 炭素鋼材の抗張力と製鋼方針  
株式会社大同電氣製鋼所技師 工學士 深 田 辨 三君

(21) 井口式被覆電氣熔接棒に就て  
汽車製造會社技師 工學博士 井 口 庄 之 助君  
休 憩 (十 分 間)

(22) 缺刻と材力との關係に就て  
株式会社日本製鋼所技師 理學士 蒔 田 宗 次君

(23) 各種耐鑄鋼に關する研究  
陸軍科學研究所砲兵大佐 工學士 川 上 義 弘君  
休 憩 (十 分 間)

(24) 平行等溫面系の幾何量と圖式  
株式会社大同電氣製鋼所常務取締役 工學士 川 崎 舍 恒 三君

(25) 鍊鐵の衝擊抗力に就て  
吳海軍工廠海軍造兵大佐 工學博士 吉 川 晴 十君  
休 憩 (十 分 間)

(26) マルテンサイドの成生に關するX線的研究  
東北帝國大學金屬材料研究所々長 理學博士 本 多 光 太 郎君  
同 所 所 員 理學士 關 戶 信 吉君  
閉 會 之 辭 日本鐵鋼協會會長 工學博士 鹽 田 泰 介君

午後五時 閉 會

以 上